

パリの街並みをスキャンする

五十嵐太郎

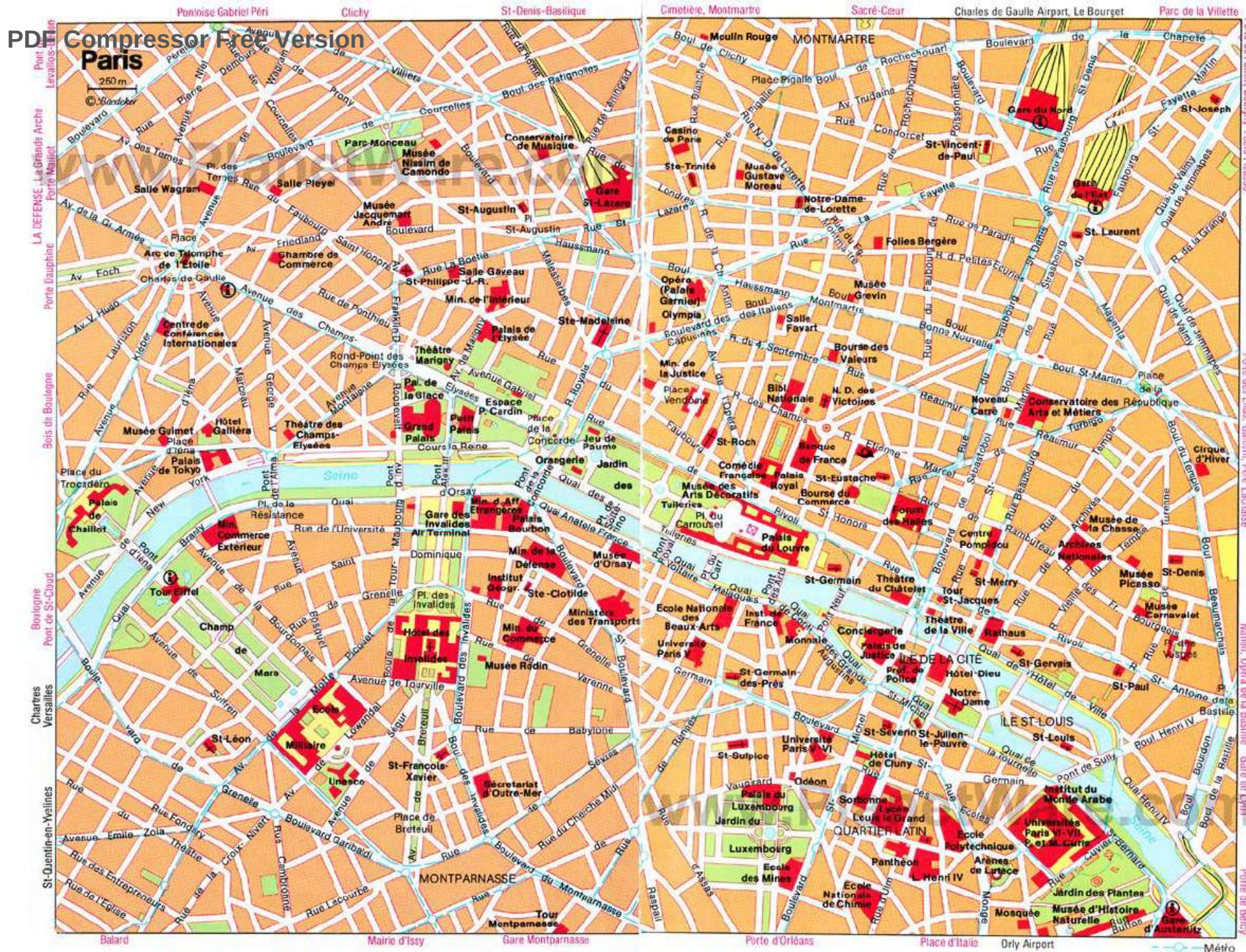
グーグル・ストリート・ビューのように、
連続的に建物のファサードを撮影し、
幾つかの街路をスキャンした。

有名な建築を中心とせず、
無意識的な視覚となる
そのまわりの建築群を測定する。

都市史の蓄積も多く、
首都パリのイメージを形成する
現状のリアルな姿を記録すること。

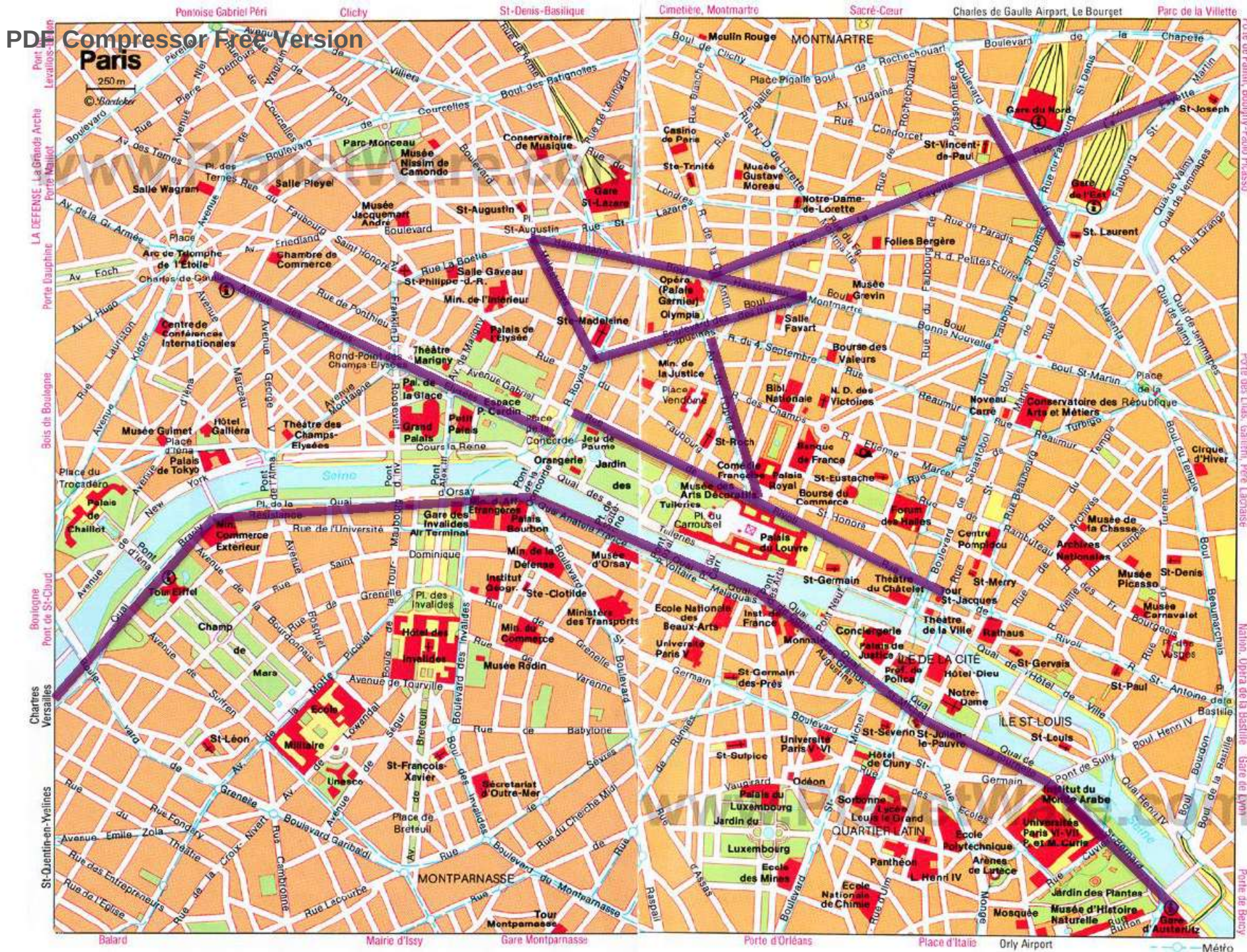
PDF Compressor Free Version

Paris



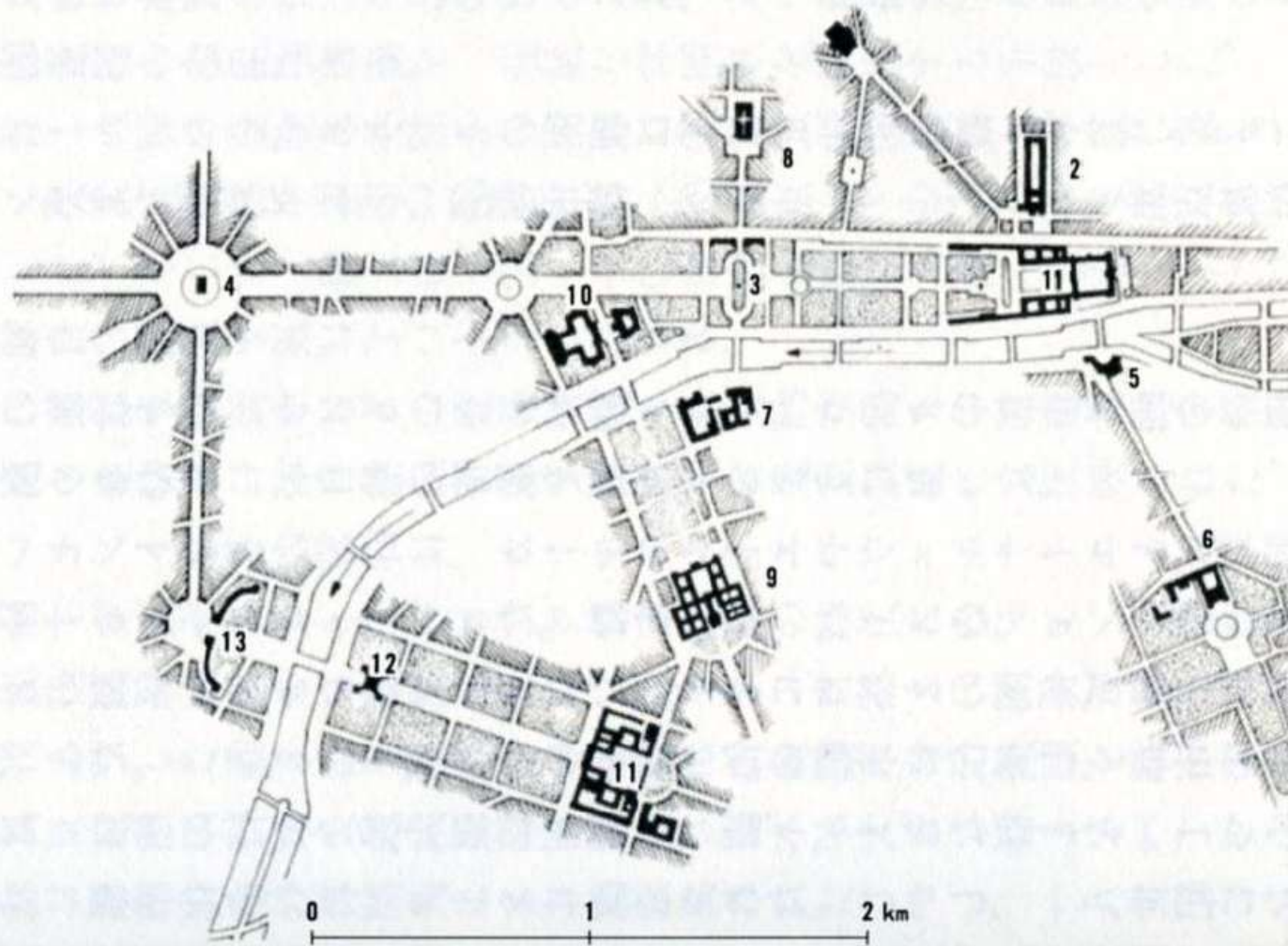
PDF Compressor Free Version

Paris



- 1 シャンゼリゼ大通り
- 2 リヴォリ通り
- 3 セーヌ川の両岸
ミラボー橋からオステルリッツ駅まで
- 4 オペラ大通り
- 5 マドレーヌ教会を頂点とする三角形
～ブルヴァール・オスマンなどを含む
- 6 ラファイエット通り
- 7 北駅から東駅まで

1. ルーヴル宮殿
2. パレ・ロワイヤル
3. コンコルド
4. エトワール凱旋門
5. フランス学士院
6. リュクサンブール宮殿
7. 国民議会（ブルボン宮殿）
8. マドレーヌ聖堂
9. アンヴァリッド（廃兵院）
10. グラン・パレおよびプチ・パレ
11. 陸軍士官学校
12. エッフェル塔
13. トロカデロ



バロック的な都市デザインの手法

- 1 直線的な大通り（都市軸）と円形広場（ノード）
- 2 連続する壁面の建築群

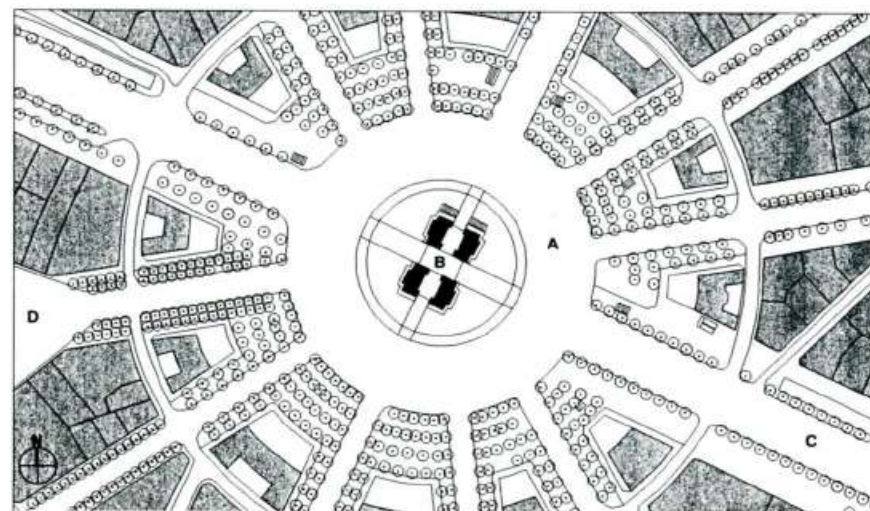
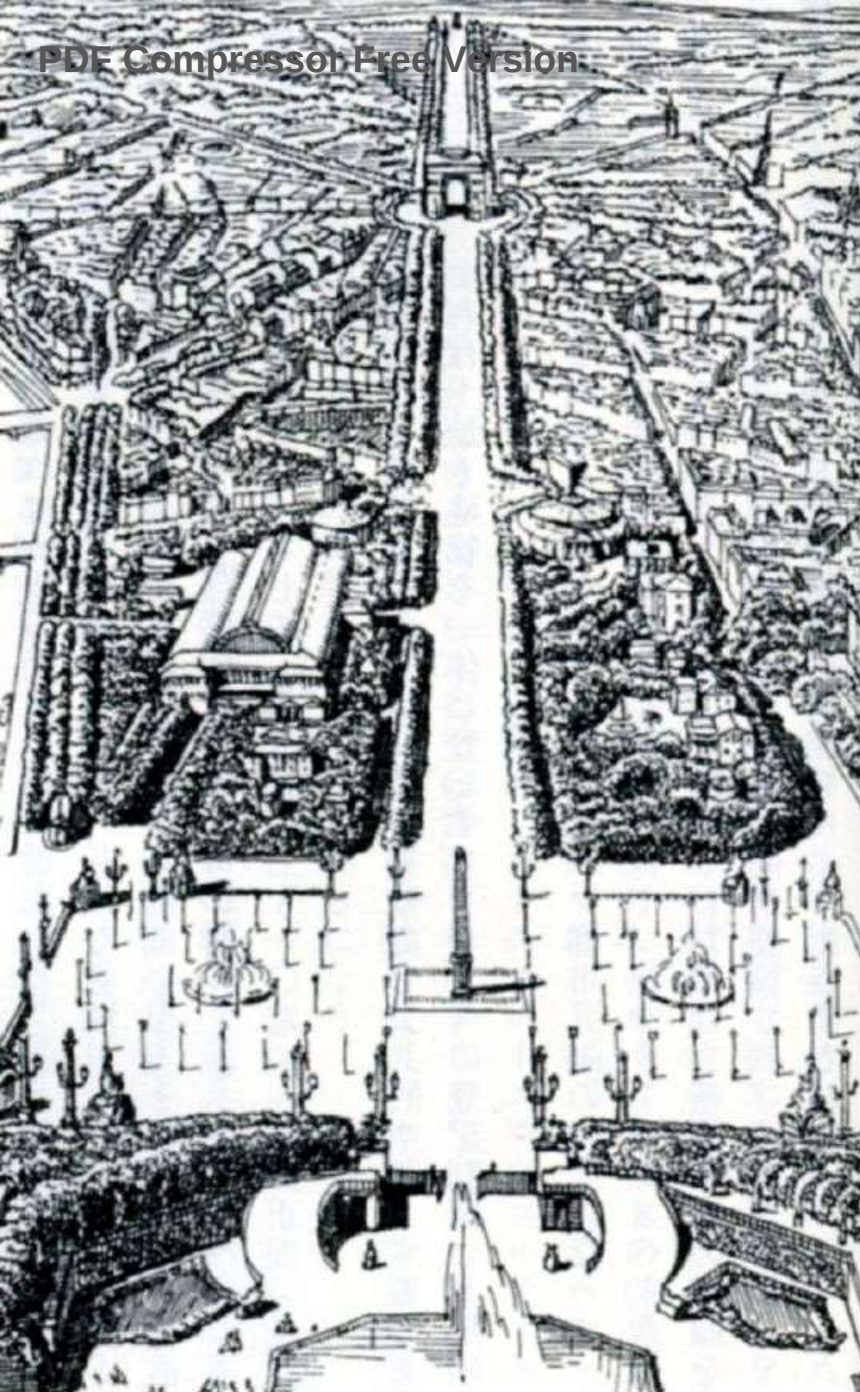


シャンゼリゼの起点となる
ロータリー
建物のズレはあっても、
隙間がなく、
大まかな構成を共有





中心にモニュメントがなく、
空間の統合性は弱い。



ルイ14世の時代から西へのびるシャンゼリゼ
1806-36年 凱旋門の建設
1855年 イトフルによって広場を囲む建物群



シャンゼリゼ大通りを登る → 1: 南側を見る



現代建築も混ざっており、想像していた以上にバラバラである。



個別の建物は不均質だが、街路樹によって緩和されている。



縦の細かい分節が、古典主義と現代建築のファサードにも認められる。



規定のヴォリュームに
おさまったガラスの現代建築



斜面において建物を連続させる際、無理に水平線をつなげることなく、ファサードのレベルでも、隣との階をズレが生じている。



←シャンゼリゼ大通りを登る 2:南側を見る



前衛的ながら、縦横の分割線を意識した
シトロエンのショールーム



←同じ古典主義だが、個別の意匠は想像以上にばらばら。





←水平にスキャンして見る都市のファサードではなく、むしろ凱旋門を意識しつつ歩く場では？



←斜路だが、基壇としてのレベルでは水平のラインをそろえている。

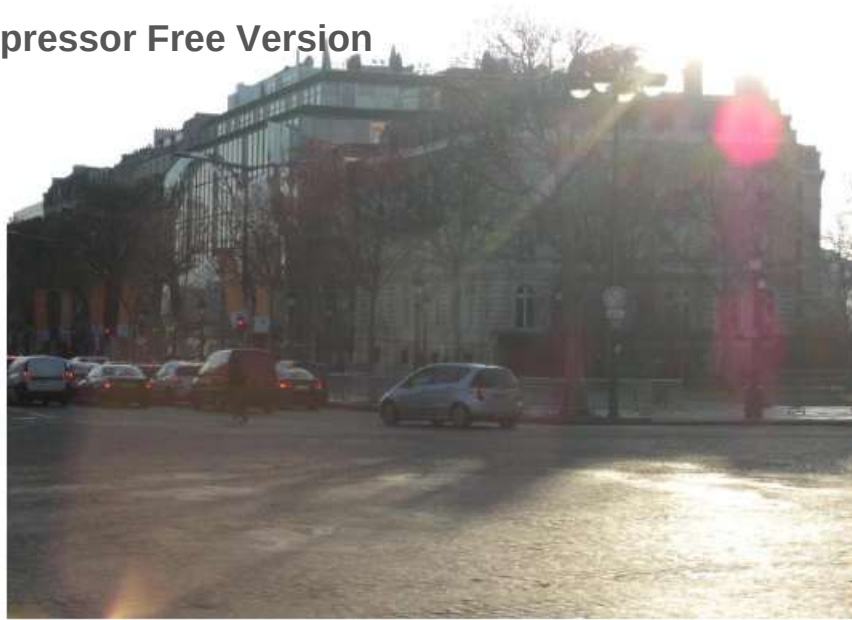




凱旋門から反時計まわりにぐるりと一周する。



均質なヴォリュームが反復する。



アイキャッチとなる
凱旋門が
シャンゼリゼ大通りのイメージを
強く規定している。



Édifié à la gloire des armées napoléoniennes, inauguré en 1836 par Louis-Philippe, l'Arc de triomphe a longtemps clos la perspective des Champs-Élysées. Depuis 1989, c'est la Grande Arche, signée par l'architecte Otto von Spreckelsen, qui, à l'extrémité du quartier de la Défense, prolonge à l'ouest cet axe prestigieux.

Avenue des Champs-Élysées, 8^e arrondissement. The Arc of Triumph is a tribute to Napoleon's armies. Inaugurated by King Louis-Philippe in 1836, it was long the closing landmark of the Champs-Élysées. In 1989, however, the prestigious point of view was visually extended westward to the business district with the completion of the Grande Arche de la Défense, designed by architect Otto von Spreckelsen.



Avenue des Champs-Élysées

8^e arrondissement



Retour à Paris

Identical shots, a hundred years apart

Les mêmes lieux photographiés d'un siècle à l'autre

DANIEL QUESNEY

 PARIGRAMME

Paris Historique. — 8, Hôtel Sully, 143, rue Saint-Antoine, construit sur les dessins de Jean Ducerceau, construit de 1624 à 1636



Construit au début du XVII^e siècle, l'hôtel de Sully fut la résidence du célèbre ministre d'Henri IV. Abîmé par des occupations commerciales et artisanales au cours du XIX^e siècle et de la première moitié du XX^e, l'hôtel a depuis été rétabli dans son état d'origine.

**Hôtel de Sully,
4^e arrondissement.**

This early 17th-century private mansion bears its first owner's name. Sully was a minister of King Henri IV. 19th and early 20th-century commercial operations renting space here caused extensive damage but faithful renovation has now restored it to its original splendor.



Hôtel de Sully
4^e arrondissement



La rue Dauphine, percée au début du XVII^e siècle, est une conséquence du Pont-Neuf, auquel elle offre une issue vers les quartiers encore médiévaux de la rive gauche.

Rue Dauphine, 6th arrondissement. The Left Bank's medieval quarters can be accessed via rue Dauphine which was traced in the 17th century as a direct result of the construction of the Pont-Neuf.



Rue Dauphine
6^e arrondissement



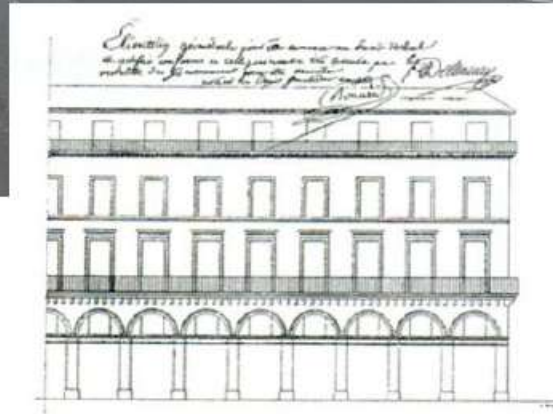
コンコルド広場からマドレーヌ教会を見る。



リヴォリ通りの北側を東から西へ→



もっとも統一された都市のファサード。1805年のデザイン規制
連続するアーチ(二層分)／三層分の壁面／二層分の屋根裏





建物がばらばらではなく、
ブロックとしての街区が
まとまったヴォリュームを形成している。



